

2026年4月5日 復活節第1主日礼拝次第

イースター礼拝（復活祭全体礼拝）

前奏（黙想）

招きの言葉 イザヤ書42章10～12節(旧約1129節)

讃美歌 333(主の復活ハレルヤ)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩編交読 詩114編1～8節(交読詩編131節)

聖書 ヨハネによる福音書20章1～18節(新約209節)

祈禱

讃美歌 324(主イエスはすすみて)

説教 「墓から取り去られ」 田中雅弘牧師

讃美歌 69(神はそのひとり子を)

バプテスマ(洗礼)

讃美歌 81(主の食卓を囲み) 1、2節

聖餐

讃美歌 81(主の食卓を囲み) 3節

信仰告白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献金

讃美歌 88(こころに愛を)

派遣祝福

後奏（黙想）

報告 ※讃美歌は、原則として全節を歌います。

主の祈りC(讃美歌21 93-5-C

司式者) 天の父

一同) わたしたちの父よ、

み名があがめられますように。

あなたの国が来ますように。

みこころが天と同じく地でも行われますように。

きょうのパンを きょうお与えください。

わたしたちの負い目をおゆるしてください。

わたしたちも負い目をゆるし合います。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

かえって悪からお救いください。

国も力も栄えも、限りなくあなたのものです。アーメン

聖書 ヨハネによる福音書20章1～18節

復活する

1 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2 そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」3 そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。5 身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。6 続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。7 イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。8 それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。9 イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。10 それから、この弟子たちは家に帰って行った。

イエス、マグダラのマリアに現れる

11 マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」14 こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。15 イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」16 イエスが、「マリア」と言わ

れると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。17 イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」18 マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

讃美歌333番

- 1 主の復活ハレルヤ ほめ歌えハレルヤ
墓も死もうれいも 打ち破る主イエスよ
死のとげさえ滅ぼし 人の罪を贖う
主の復活ハレルヤ 歌声はハレルヤ
- 2 墓ふさぐ岩さえ 三日目にのけられ
死を越えて命へ 主は勝利おさめた
死のとげさえ滅ぼし 人の罪をあがなう
主の復活ハレルヤ 歌声はハレルヤ
- 3 墓に立つ天使が 喜びを知らせる
「恐れるな 主イエスは ここにはおられない」
主を包んだ衣が 丸められているだけ
主の復活ハレルヤ 歌声はハレルヤ
- 4 「さあ行って、この知らせを 弟子たちに告げなさい
主は復活なされた われらは救われた」
死のとげさえ滅ぼし 人の罪を贖う
主の復活ハレルヤ 歌声はハレルヤ

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌330番

- 1 主イエスはすすみて 十字架につき、
くるしみたまえど われら知らず。
- 2 われらのつみとが 主はにないて、
かなしみたまえど なげかざりき。
- 3 この世のやみじの そのさなかに、
ひかりといのちを 与えし主よ。
- 4 十字架の主イエスよ、よみがえりの
ちからとよこび あたえたまえ。

讃美歌69番

- 神はそのひとり子を十字架につけて、
招かれる、私たちすべての子どもを。
- 1 罪のなか苦しむ 主の子どもたちよ、
あわれみと赦しを 願おう、いま。
 - 2 あたらしく生まれる 約束をしんじ、
祈りつつ 洗礼を受けよう、いま。
 - 3 くらやみも恐れず、進み行こう、共に。
罪と死に打ち勝つ 主がおられる。

讃美歌81番

- 1 主の食卓を囲み、
いのちのパンをいただき、
救いのさかずきを飲み、
主にあってわれらはひとつ。
マラナ・タ、マラナ・タ、
主のみ国がきますように。
- 2 主の十字架をおもい、
主の復活をたたえ、
主のみ国を待ち望み、
主にあってわれらは生きる。
- 3 主の呼びかけにこたえ、
主のみことばに従い、
愛のいぶきに満たされ、
主にあってわれらは歩む。